

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392500654		
法人名	社会福祉法人 幸寿会		
事業所名	グループホームさくらいふ六軒屋 Aユニット		
所在地	愛知県春日井市六軒屋町西3丁目13番地27号		
自己評価作成日	令和2年6月26日	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392500654-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392500654-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年9月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が一日一日楽しく、穏やかに笑顔で過ごしていただける様にレクリレーション等を行っている。  
 季節の壁紙を 作成して頂き 春夏秋冬を感じて頂く。  
 訪問診療、訪問看護、訪問歯科、薬局との連携を密にして 医療面での補佐を行っている。  
 毎日、バイタル、血中酸素飽和濃度を測定している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、昨年(令和元年)10月に開設されている。ホームの敷地内には、グループホームの他にも小規模多機能事業所やサービス付き高齢者向け住宅を併設して開設されていることで、地域で暮らしている様々なニーズを抱えている利用者に対応した支援を目指している。ホームに入居している利用者については、段階的に入居を進めながら、今年度に入ってから2ユニット目にも利用者が入居し、ホームの支援体制を整えている。ホームの職員体制についても段階的に体制づくりを行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援内容の検討や職員間で必要な情報を共有する取り組みが行われている。また、ホームの敷地内には畑がつくられてあり、利用者と季節に合わせた野菜類等をつくりながら、日常の食事に活かす等、利用者の楽しみにつなげる取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	外出やレクリエーションなどで取り入れた計画作成。コロナが落ち着いたらボランティアレクリエーション等取り入れていく。	理念については、ホーム開設時につくられており、事務室内への掲示が行われている。職員が日常の支援を通じて理念を意識するように働きかけも行われているが、ホーム開設1年目であり、今後の課題でもある。	理念はホームが進むべき理想であり、目標でもある。職員一人ひとりが理念の内容を意識するように、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設周囲への散歩やデパートへの買い物を実施している。(神社・市営施設)	地域の方との交流については、併設事業所と合わせて、事業所全体で行われているが、感染症問題が起きたこともあり、地域の方との交流の機会は限られた範囲となっている。	今後に向けて、感染症問題が落ち着いた際には、併設の小規模多機能事業所とも連携しながら、地域の方との交流の機会がつけられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	あまりできていない。方法がわからない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を行っている。出た意見を取りいれて変更を行ったり、活かすことができる。	感染症問題もあり、出席者が集まって会議は、ホーム開設から2回行われているが、会議の際には家族にも参加を呼びかける等、ホームの現状を知ってもらう機会につなげている。会議に地域の方も参加しており、地域の方との情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	あまりできていない。	ホーム開設後に市内の介護事業所が集まる連絡会が開催された際には、ホームからも職員が参加する機会をつくっており、情報交換等の機会につなげている。また、市の介護相談員を通じた情報交換等は、感染症問題もあら。現状は行われていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月委員会により、会議、報告。今後については無しをする事があればその都度話し合いをしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者一人ひとりに合わせた支援が検討されている。ホームでは、身体拘束に関する委員会を毎月実施しており、職員への注意喚起や現状の支援等に関する振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行っている。防止することが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	あまりできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族の不安や疑問点にはこたえられることには答え、分からないことがあれば管理者に確認や返答をお願いするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やご家族へTELする際に利用者様の状況を伝えご家族に意見などを聞くことができる。	家族との交流会等については、開設後に感染症問題が起きたこともあり行われていない。運営推進会議を通じたアンケートを実施しており、家族からの要望等の把握につなげている。また、利用者一人ひとりに宛てた毎月の便りの作成が行われている。	感染症問題が起きたこともあり、家族との交流の機会が限られた範囲となっている。感染症問題が落ち着いた際には、家族との交流会の開催等、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や面談を行っている。何かあればその都度話を聞くことができている。取り入れていると思う。	毎月の職員会議を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談の機会もつくられており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	していただいていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	していただいていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	していただいていると思う。勉強会に参加させて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様とコミュニケーションを取る。時間を作るよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時やTELの際に伺う事が出来ていると思うが、もっと積極的に行いたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	問題が必要としている支援ができるよう、その都度話し合いや変更などに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	行う事はできていると思うが意識して行う事は出来ていなかったのもっと意識したい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	話しを伺う機会を作ることが出来ていると思うがもっと積極的に取り入れたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様にも力を貸していただける場所は、お願いをしている。もっと積極的に取り入れたい。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問して利用者と交流する等、馴染みの関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族との外出についても、喫茶店に出かける等、家族と一緒に過ごす機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の年齢や好きな事、物、相性などをみてテーブルを決めたりレクレーションを考えている。利用者様間に入り会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努めていきたいです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様本位の介助に努めている。	利用者に関する意向等を職員全員で把握に取り組んでおり、申し送り等を通じて共有が行われている。また、毎月の職員会議を通じた定期的なカンファレンスが行われており、利用者に関する意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様や家族様に伺い、分からないことがないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	観察や声掛けを行っている。変わった事・情報は職員間で申し送り、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	考えて作成しています。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた対応が行われている。また、利用者の状況等に合わせた記録用紙を変更する取り組みも行いながら、介護計画の実践と定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	臨機応変な対応を心がけている。職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設やでぱ一となどへ外出を取り入れている。訪問歯科なども取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	している。	協力医が利用者一人ひとりに合わせて訪問診療を行っていることもあり、日常的に医療面での連携が行われている。ホームの近隣に協力医の関連事業所があることで、利用者の健康状態等に合わせた受診支援等も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員間でも情報のもれがないよう 申し送りファイルへの記入をしっかりと行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	あまりできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組めるようにしていきたい。	現状、ホームの支援体制も充分ではないこともあり、現状の支援体制下での看取り支援は難しい状況でもある。看取りを見据えた方針については、前向きな考えもあり、利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いの機会がつけられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	もっと勉強していく必要があると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行ったり、情報を聞いたりしているが、勉強が必要だと思う。	避難訓練については、開設1年目でもあり、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認等については、段階的に進めている最中である。消防署との連携した取り組みも行われている。また、併設事業所と連携した取り組みも行われている。	非常災害時における対応について、併設事業所と連携した合同訓練の継続等に期待したい。また、合わせて備蓄品の確認についても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	心がけている。友達のような対応にならないようにしている。	日常的には、管理者が職員による利用者への対応や言葉遣い等で気になった際には、注意喚起を行う等の取り組みが行われている。また、ビデオを活用した職業倫理に関する研修を実施しており、職員の意識向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のコミュニケーション変わった様子があれば意識的に声掛けする。ゆっくりと話ができる時間を作ろうと心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ出来るように考え努力している。全ては出来ない状況になっている。もう少し頑張りたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員本位にならないようにしている。服を着替える際はご本人様と確認しながら選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事形態や量に気を付けている。好みを聞いて別盛りにするなど対応をいている。	食事については、外部の業者も活用しながら、おかず類なやなやな提供が行われているが、ホームのキッチンを活用した調理も行われており、利用者の楽しみにつなげている。利用者も盛り付けや片付け等のできることに参加する機会がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、食事量などのチェックをして摂取量が少なければ細めに声掛けをしたり電解水を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアをしている。歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジブラシなどで その方に合ったものを使っていただけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	行っている。必要以上にパットやリハビリパンツの使用をしないようにしている。できるだけトイレでの排泄を進めている。	利用者の排泄に関する記録を残し、日常的な申し送り等を通じて、職員間での情報の共有につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善につなげている。また、協力医や看護師との排泄に関する連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取をすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	なかなかできていない。拒否がある時、無理な入浴は進めないようにしている。	週4回を基本に入浴の準備を行い、利用者は週2～3回入浴するように支援が行われている。時間は午前を基本にしつつ、午後の時間にも対応している。また、利用者の身体状態に合わせた職員複数での支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	傾眠ある時は臥床をすすめる。昼夜逆転にならないように声掛けやレクリエーションの参加を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めているが、もっと知識を深めて理解していきたいです。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	心がけてレクリエーションなど考えている。ご本人様にうがい、出来るだけ希望に沿うことができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行っているが、ご家族の協力を得られるようにしていきたい。もっと行っていきたい。	感染症問題が起きたこともあり、現状は利用者の外出行事が行われていないが、日常的にはホーム近隣を散歩する等、利用者がホームの外に出る機会がつけられている。開設1年目ではあるが、初めて迎えた正月には初詣に出かける機会がつけられている。	ホーム開設から程なくして感染症問題が起きたことで、ホームからの外出行事が行えなくなっている。今後、感染症問題が落ち着いた際には、職員間で利用者の外出行事を検討する取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はご家族様管理になっているので、ご本人様は所持していません。買い物には(食材やおやつ)一緒に行っていたいいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いている。手紙を書くことを希望している利用者様たTEL希望している方の対応ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	徐々に変えていっている。トイレがわからなくなってしまう方のために分かりやすいように工夫している。	ホーム内は限られた広さではあるが、リビングの通路を活用する等、利用者が日常生活の中で圧迫感等を感じないような生活環境がつけられている。また、ホームの敷地内に畑がつけられてあり、利用者が季節を感じるような配慮にもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	している。テーブル配置などに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理し、安全に生活できるよう工夫している。写真や家で使っていた物を持ってきていただいている。	利用者の中には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われている。また、居室内に介護用ベッドが設置されていることで、現状は全員の方がベッドで生活している。	現状、利用者や家族の意向等に合わせた、馴染みの物や好みの物等の持ち込みが少なく、シンプルな雰囲気のある居室の方が多いため、今後に向けた、利用者に合わせて居室づくりにも期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	整理して安全に生活できるよう工夫している。分かりやすいよう表記している。		